

第31回広瀬川創生プラン策定推進協議会 議事録

- 日 時：平成 28 年 8 月 24 日（木曜日） 10：00～12：00
- 場 所：仙台市役所本庁舎 2 階 第 4 委員会室
- 出席委員：宮原 育子 会長、小祝 慶紀 会長代理、工藤 秀也 委員、後藤 淳 委員、佐藤 克彦 委員、菅井 一男 委員、杉山 ふじ子 委員、高橋 勝利 委員、西大立目 祥子 委員、二本柳 基 委員、長谷川 裕寿 委員、幕田 浩之 委員
- 欠席委員：多田 千佳 委員、畠山 美帆 委員、深松 努 委員、
- 事務局：仙台市建設局百年の杜推進部河川課
- 報 告：平成 28 年度 重点事業の進捗について
 - ① 広瀬川 1 万人プロジェクト
 - ② 広瀬川で遊ぼう
 - ③ 作並かっぱ祭り
- 議 事：広瀬川市民会議の運営体制強化 取組状況の進捗について
- 要 旨：
 - 広瀬川市民会議と広瀬川 1 万人プロジェクトとの提携模索については、一度 1 万人プロジェクト側の意向をヒアリングした上で、提携の是非やそれぞれの役割分担を検討すべきである。
 - 広瀬川市民会議については、情報公開・広報をもっと強化し、流域の市民センターや小学校などとも連携しながら、活動目的や理念をもっと一般市民も含めてアピールしていく必要がある。
 - 広瀬川市民会議が関わるイベントに参加してくれた市民に対して、もっと積極的に働きかけを行い、広瀬川に関わる人の裾野を拡げていくべきである。
 - 上記ソフト面でのアプローチに加えて、散策路整備等のハード面でのアプローチが実現すれば、さらに広瀬川に人を呼び込むことができるため、河川管理者とも連携を図って実現可能性を検討していくべきである。

■ 議事詳細：

1. 開会

○司会（安田課長）

ただ今より「第31回広瀬川創生プラン策定推進協議会」を開会する。

本日は、前回（第30回）協議会から、新たに2名の委員が変更となっているのでご紹介する。

○高橋 勝利 委員（宮城県仙台土木事務所 河川砂防第一班班長）

4月より前任の遊佐より引き継いだ。よろしく願います。

○幕田 浩之 委員（東北電力株式会社 宮城支店 企画管理部門）

広報や地域交流を担当している。よろしく願います。

○司会（安田課長）

なお、本日は、多田委員、畠山委員、深松委員においては欠席とのご連絡をいただいている。

2. 会長挨拶

○宮原会長

3月に行われた前回（第30回）協議会において、会長の指名を受けた。また、個人としては、4月より宮城学院女子大学に勤務しており、仙台市青葉区にキャンパスがあるということで、より広瀬川を身近に感じることができるようになった。小祝会長代理とともに、今期は当協議会およびプラン推進のためにがんばって参りたい。よろしく願います。

今回の協議会では、平成28年度の重点事業の進捗状況についての報告と、広瀬川市民会議の運営体制強化に関する議事を予定している。特に後者については、委員の皆様と十分な議論を交わしていきたいと考えている。よろしく願います。

○司会（安田課長）

続いて、建設局長の村上よりご挨拶申し上げます。

○村上局長

本日は、ご多忙の折、ご参集いただき感謝申し上げます。近日では、仙台でも珍しく35℃を超える猛暑日が続くなど、今年の夏は例年に比べ暑くなっていると感じている。そのこともあってか、老若男女問わず、「涼」を求めて広瀬川の清流を訪れた人も多かったのではないかと推察しており、重点事業になっている「広瀬川1万人プロジェクト」や「広瀬川で遊ぼう」、「作並かつば祭り」は、大変盛況のうちに実施され、改めて当プランは広瀬川の魅力発信の原動力となっていることが認識できた。一方で、その推進主体である「広瀬川市民会議」の組織体制強化については、課題となっているところであり、当プランがより積極的な情報発信や魅力創出ができるよう、活発なご意見・ご議論を、よろしく願います。

3. 報告

○司会（安田課長）

本日は全15名の委員のうち、11名の方に出席いただいております、過半数を達しているため、本会は成立しています。以降の議事の進行については宮原会長にお願いします。

○宮原会長

まず、今回の議事録署名は五十音順で菅井委員にお願いしたいがいかがか。

＝一同了承＝

○宮原会長

それでは、平成28年度重点事業の進捗状況について、事務局から報告をお願いしたい。

○事務局（杉井 広瀬川創生室長）

資料1～4に沿って、各重点事業の進捗状況について説明。

○宮原会長

今の事務局からの説明について、質問等はあるか。

○菅井委員

「広瀬川で遊ぼう」実行委員会の委員長を務めている。今年は雨で中日を中止としたことで、2日間の開催となったが、大変多くの方にお越しいただいた。運営面においては、学生ボランティアの参加が年々増えており、非常に大きな戦力となっている。パネル展示では、各行政機関の広瀬川に対する様々な取り組みが紹介され、多くの方が足を止めていた。その他にも地域住民や町内会の協力や地元企業からの協賛金の提供など、まさに官・学・産・民が合同で運営するイベントとなった。

○長谷川委員

作並かっぱ祭りについて、今年度は例年に比べ気温が低く、川遊びの後に暖をとる子供たちの姿が印象的だった。また、昨年9月の関東・東北豪雨による地形の変化等の影響も心配されたが、特に滞りなく実施することができた。昨年度から場外に臨時駐車場を確保し、人数制限を設けて事前申込制としている。特に臨時駐車場については、地元の方々に草刈り等の多大なるご協力をいただいているところではあるが、お客様の安全確保や満足度向上といった観点から、今後もこの方式は継続していきたいと考えている。

○宮原会長

その他、特に意見等なければ、重点事業の報告は以上とし、次の議事へうつりたいが、よいか。

＝一同了承＝

4. 報告

○宮原会長

それでは、議事「広瀬川市民会議の運営体制強化 取組状況の進捗について」、事務局から説明をお願いしたい。

○事務局（杉井 広瀬川創生室長）

資料 5 および 6 に基づき、スライドを用いて説明。

- ・現行案：1万人プロジェクトとの提携模索継続
- ・その他のアプローチ事例 1：他団体との提携模索
- ・その他のアプローチ事例 2：市民会議の裾野拡大

○宮原会長

広瀬川市民会議は、広瀬川創生プランの実行部隊であり、その活動を活性化させるべく、広瀬川1万人プロジェクトに参画している企業や団体の力を借りることも視野に入れる必要があるのではないかと、ということについて、これまでも当協議会において議論を深めてきた。委員の皆様においては、広瀬川市民会議のあり方や、広瀬川1万人プロジェクトとの提携の進め方、もしくは広瀬川1万人プロジェクト以外の団体との提携など、事務局からの案や事例を参考にしながらも、決して捉われることなく、様々なご意見をいただければと思っている。

議論に入る前に、広瀬川市民会議の会長である工藤委員からお話をいただきたい。

○工藤委員

「広瀬川1万人プロジェクト」は、発足当初は20団体程度であったが、企業の社会的責任(CSR)の重要性が拡大していったことを背景に、参加企業にメリットが生まれる仕組みを導入したこともあり、現在では100を超える企業・団体の加入がある。一方で、「広瀬川市民会議」は、「広瀬川の環境保全や魅力創出」といった、「理念」や「夢」を礎にして活動しているが、近年ではそれを力に変えていく、持続していくことが難しくなっており、創造的かつ持続可能な活動ができていないと言わざるを得ない状況であると認識している。

○宮原会長

事務局および工藤委員のお話では、「広瀬川1万人プロジェクト」に参画する企業や団体は清掃活動への参加は積極的であるものの、それ以外の活動、例えば昨年より広瀬川市民会議との交流を目的として実施している「広瀬川学校」などへの出席はなかなか得られないというのが現状である、とのことであった。これを踏まえて、まずは「広瀬川1万人プロジェクト」との交流促進のための具体的な手段について、議論して参りたいが、最初に本日欠席している委員から意見を預かっているので紹介させていただく。

(多田委員) 広瀬川1万人プロジェクトの方は、企業の参加が多いと聞いた。「広瀬川学校」の開催も、企業の人に、メリットがあるようなカリキュラムにしてはどうか。たとえば、1万人プロジェクトによく参加している企業の方に、学校の講義内容を企画提案してもらい、その会社の宣伝も含めてするような形をとれば、企業側の人にとっても、単なる勉強ではなく、宣伝する効果、また、CSRの取り組みとしてアピールできると考える。その企業の方の提案に、市民会議の皆さんも協力をしていくことで、少しずつ、融合できたら、いいのではないかと。

(深松委員) 広瀬川1万人プロジェクト実行委員企業の参加を促すべく、広瀬川学校をCSR活動化し、それに結びつくような企画を考える必要がある。(例：サケの稚魚の放流など)

○宮原会長

お二方とも、1万人プロジェクト参画企業の参加を促すべく、CSR活動と結び付けていくというご意見であった。それではここからは、出席いただいている委員より意見を頂戴したい。

○西大立目委員

広瀬川1万人プロジェクトに参画している企業が、どのような意識で参加しているのか、ヒアリングしてはどうか。CSR活動の一つとして、メリットの部分意識しながら参加している企業もいれば、純粹に広瀬川の自然環境保全のために参加している企業もいて、企業によって様々なのではないか。

○二本柳委員

広瀬川市民会議と広瀬川1万人プロジェクトの提携を進める上では、双方の目的意識および課題意識が合致している必要がある。CSR活動との結びつけという意見が出てはいるが、まずは広瀬川市民会議が、今後どのような目的や課題を掲げて活動していくのか明確にすべきである。

○工藤委員

広瀬川市民会議はあくまでも広瀬川創生プランに基づき活動するということが前提であるので、目的や理念は、プランに依拠している。

○宮原委員

確かに、広瀬川市民会議の理念は、創生プランのそれと同じものであるが、それを再度明確化して、1万人プロジェクトを含めた多くの人と共有していく、というのは重要な意見であると考え。

それでは、ここで、1万人プロジェクトに参画している企業の立場のご意見を伺いたいがいかがか。

○長谷川委員

「広瀬川1万人プロジェクト」の清掃活動は、広瀬川流域全域で実施されるため、会社のすぐ近くにも参加会場があり、非常に参加しやすいと感じている。また、人数的にも多くの社員に参加を促しているが、活動後に会社としてバーベキューなどを企画するなど、社員やその家族が参加しやすいような工夫もしている。もちろん、会社としてはウキスキーづくりに欠かせない広瀬川の水環境を保全したい、という目的意識で参加しているが、それだけでは、休日に多くの社員が参加させることは非常に難しいのが実情である。社員同士のコミュニケーションツールとして非常に参加しやすい活動であるが、社員の参加を増やすには、何かプラスアルファになるものを会社として仕掛ける必要がある。

○幕田委員

当社でも地域への社会貢献に対しては積極的に取り組んでいる。社員どうしの交流の場になることに加えて、地域の方とともに活動できたという喜びも感じられるため、1万人プロジェクトのようなボランティア活動は、社員にとっては貴重な機会になると考えている。会社にとっても、社会貢献活動の一つとして周知できることは、参加しやすい要素になると考える。しかし、広瀬川市民会議への加入となると、企業の業種によって関わり方が違うため、広瀬川市民会議の活動目的と合致するような関わり方をしている企業かどうか、ということも検討していく必要がある。

○宮原会長

「広瀬川市民会議として一緒に活動しましょう！」と誘われた場合、企業としてはどのような印象を受けるか。

○幕田委員

特定のイベント、例えば地域の小学校向けの講座などは、実施できる可能性はあるが、全てに関わる、全体をまとめる、ということは難しいのではないかと。

○杉山委員

市民会議の会員を3～4年、1万人プロジェクトの会計を担当して6～9年になる。1万人プロジェクトに参画している企業さんとお話すると、年2回おこなわれる一斉清掃に参加するだけでも大変そうで、市民会議にも関わるというのは難しそう、というのが素直な印象である。また、以前1万人プロジェクト参画企業を対象に、バーベキューを施して、参画企業どうしの横のつながりを形成しよう考えたが、参加企業内部での社員同士の交流の機会を奪ってしまうのでは、という意見が多く、実現できなかった。個人としては、年2回の一斉清掃を活用して、社内のコミュニケーションを活発化させるということは、とても素晴らしいことではないかと感じている。むしろ、1万人プロジェクト参画企業以外の、チラシやホームページなどを見て、参加してくれた企業や団体を取り込むことができず、そういった人たちにも目を向けていくことが大切なのではないかと考える。

○宮原会長

1万人プロジェクト以外の企業・団体とは、例えばどのようなものがあったか。

○杉山委員

何か環境に対する貢献、ボランティアをやってみたいという学生や少年団、美容師の団体などがあつた。CSR等の観点ではなく、純粋にボランティアに携わりたいという想いで、自ら検索して参加してきてくれているようであった。そういった人たちに次につながるアプローチをしないままになっているのは非常にもったいないと感じている。

○菅井委員

近年の協議会では、この議題について議論が重ねられているが、私は広瀬川市民会議と広瀬川1万人プロジェクトを一つの団体にして、広瀬川創生プランの大きな推進主体と位置づけ、NPO法人化、さらには認定NPO法人を目指していくべきだと考えている。認定NPOになることができれば、企業は税制面において寄付を行いやすくなる。広瀬川創生プランは70を超える事業があることから、それぞれの得意分野を活かしながら、企業やNPO、市民団体が一緒になって推進していくことが必要であると考えます。

○後藤委員

企業側の立場から考えると、清掃活動への参加以上のものに対するニーズがあるかという疑問がある。当然企業によって、様々なニーズがあるとは思いますが、どちらかという資金面の援助を行うのが企業側の役割ではないかと思う。個人的には(市民会議と1万人プロジェクトを)一体化については、慎重に検討すべきと考えるが、いずれにしても一度1万人プロジェクトに参画している企業にアンケートを実施すべきだと思う。

広瀬川はブランドイメージの割には、市民にとって身近なものとはいえないのが現状であり、それは広瀬川を訪れる必然性が少ないからだと考えている。イベント等で訪れるきっかけをつくることは確かに大切だと思うが、やはり日常的に広瀬川に足を運ぶためのしくみが必要である。日常的に足を運ぶ人が増えれば、やはり広瀬川の環境を守ることは大切だ、と体感する人が増え、そこから市民活動が生まれていくと考える。例えば、現在では遊歩道が途切れ途切れになっているのが全部つながれば、仙台市民にとって大きな財産になると思う。実現には管理者等の課題があることは承知しているが、そういった努力を続けていくことで、市民活動は盛り上がりを見せていくのではないかと考える。

○高橋委員

市民に対して広瀬川創生プラン、および広瀬川市民会議の活動を周知していくためには、積極的

な宣伝活動が重要であるが、そのためには企業の力が必要となってくると考える。企業のニーズをヒアリングした上で、企画を考えていくことが、先決ではないかと考える。広瀬川には多くの名所や歴史が詰まっているので、そういったものを最大限活用し、参加のきっかけとしていくことが必要である。

○佐藤委員

河川管理者という立場からは、さきほど後藤委員から意見があったような散策路の整備など、人を川に呼び込むようなハード整備などは、関係機関の垣根を超えて、実現できるよう努力して参りたい。また事例として、国土交通省は現在、文部科学省と連携して、小学校を対象に河川の環境保全と防災を両輪とした教育を行っていく取り組みが試行的に始まっている。そういったことも含め、川に人を呼びこむのは河川管理者にとっては永遠の課題であり、本日委員の皆様からのご意見は我々業務にも取り込んで参りたい。

○小祝会長代理

これまでの意見を少しまとめると、広瀬川1万人プロジェクト参画企業の意見をヒアリングするという意見と、一体化して活動を進めていくという意見が出ている。資料にある「現行案」は後者に近いが、菅井委員がおっしゃっていた一体化した上でNPO法人化ということが実現できれば、後藤委員がおっしゃっていた金銭面での支援という企業の役割を、寄付という形で果たすことができるのではないかと感じた。また、杉山委員からあった、1万人プロジェクトに参加している企業以外の団体、学生や美容師の団体などにも働きかけていく、というのは資料にある「事例2」に近いと言える。広瀬川市民会議と広瀬川1万人プロジェクトが一体化した上で、今まで働きかけを積極的にしてこれなかった人たちにも裾野を広げていってはどうか。さらに、ハード整備についても、先ほど河川管理者である佐藤委員からお話があったことも念頭に置きながら、協議会等で検討していければ、非常にいい形で活動が進んでいくのではないかと考える。いずれにしても、広瀬川市民会議の強化という方向については、協議会としては引続き検討していくべきではないかと考える。

○宮原会長

これまでの流れをまとめていただき、感謝する。個人的には、市民センターによっては、広瀬川に関わるイベントを実施しているところもあると聞くので、市民センターとの連携を推進していくべきと考える。市民センター側も人員や集客不足で困っている場合もあると思うので、情報共有を強化し、ゆるやかなアライアンスをつくっていくこともよいのではないかと考える。

○二本柳委員

情報提供の場を広げていくことが大切だと考える。小学校や市民センターに公開する機会をつくって、自分たちの理念をアピールしていくことで、市民にも広く意識が芽生え始めていくのではないかと考える。

○小祝会長代理

他県の人にも「青葉城恋唄」の印象もあり、広瀬川の認知度は高い。県外の人を対象に広瀬川の魅力やイメージをヒアリングして、それを具現化していくことも、広報としては必要と考える。

○杉山委員

広瀬川市民会議で活動していて、最近では市民会議の目的や理念が不明確になりつつあると感じる。普段の定例会議でも、システムチックになってきているので、連携する市民センターの対象を拡大するなど、もう少し議論や検討を重視していきたい。また、散策路のハード整備等、環境にも優しく形に残るような事業であれば、広瀬川1万人プロジェクトの方たちにもアピールしやすく、モチベーション向上にもつながるのではないかと、非常に希望が持てた。

○西大立目委員

ライトユーザーというお話があったが、最近ほどの団体も高齢化に悩まされているので、逆に高齢になっても元気な人たちにスポットを当てるという考え方も重要ではないかと考える。例えば、文化財課が所管しているガイドボランティアは、着実に育ってきており、仙台城址や薬師堂など、各地域に専門のガイドボランティアが存在している。高齢となっても元気で、かつ比較的時間に余裕のある人は多くいらっしゃるはずで、そういった方たちをターゲットとして、広瀬川も例えば上流/中流/下流のそれぞれの地域で、歴史や自然、環境についてガイドできるボランティアを育成し、市民会議の活動にも関わっていくようなことができないか、と考えている。

また、10年くらい前に仙台にある大学が連携して「仙台学」という集中講座が開催されたが、毎回大盛況だったと記憶している。そのことからわかるように、広瀬川に関心を持ってはいるが、どう関わったらいいかわからない、という人が多いと思われるので、そういう人たちを対象に、市民センターとも連携しながら、広瀬川学講座のような、きっかけづくりとなるものを開催できれば、市民会議に加入してくれる人もでてくるのではないかと。

もしくは、現在、野山を使ったアート活動が盛んであるが、広瀬川河川敷を使ってアートなどができれば若い人世代の関心も高められるのではないかと考える。

○宮原会長

具体的な提案をいくつか頂いた。例えば広瀬川でジャズフェスをやる、といったことが実現できればかなりの大人数の集客が見込めると思われる。そういったことも含めて、本日は、いろいろな提案ややってみたいアイデアをたくさんいただいた。これらを整理して、提案やアイデアごとに連携できる団体やしくみを検討していく、「やらなければいけない」ではなく「やってみたい」というような事業であれば、例えば1万人プロジェクトの人たちとも連携が進んでいくのではないかと。

○工藤委員

広瀬川市民会議の組織強化ということで、ご議論いただいたが、いろんなイベントをやる度に、非常に盛況で多くの人に集まっていたいただいているのも事実である。本日委員の皆様からいただいた提案やアイデアは非常に魅力的なものも多く、そのそれぞれについて他の団体と連携するなどして、活動していければ、と感じている。そういった他団体との連携を、誰が、どのように進めていくのか、ということは、依然として課題であるので、引き続き協議会のみなさまには、ご検討をお願いしたい。

○宮原会長

イベントの主催者側が、参加してくれた人をいかに仲間に引き入れるか、ということをもっと意識する必要がある。お客様に楽しんでいただくことはとても大切だが、おもてなしだけで終わらず、どのように自分たちの活動を発信し、仲間を増やしていくのか、ということが大切である。

本日は、委員のみなさまより、非常に多くのご意見をいただいた。内容については事務局で議事録にまとめていただき確認することとして、本日の議事を終了したい。

＝一同了承＝

5. 閉会

○司会（安田課長）

以上をもって「第31回広瀬川創生プラン策定推進協議会」を終了する。

以上

この議事録について、会議の内容に相違ないことを認めます。

平成 年 月 日

議事録署名人

広瀬川創生プラン策定推進協議会 会長 _____ (印)

委員 _____ (印)